



＜バイオ医薬・リサーチ・レポート＞

情報提供用資料

2024年5月14日

バイオ医薬 巨額化 & 波及薬効増大中の肥満薬市場

■ 2030年に12兆円(2022年比30倍超)見通しの驚異的市場を少数の勝者で分かつ

新型コロナを意識しない日常に戻り、ワクチンを主力にするモデルナが赤字に陥ったが、肥満症薬が爆発的に市場を拡大させている。モルガン・スタンレー・リサーチでは、2022年に24億米ドルだった世界の肥満症薬市場が2030年に770億米ドル(円換算で約11.9兆円)になると予想しているという(日経ヴェリタス報道)。ブルームバーグ・インテリジェンスでは、2030年の肥満症薬売上予想800億米ドル(同12兆円超)を提示しつつ、患者の治療期間が5か月長引けば5%の上ブレにつながるであろうと4月にレポートしている。

この並外れた市場を現在2分しているのがノボ・ノルディスク(デンマーク)とイーライリリー(米国、以下リリー)である。高いシェアでインスリンを供給してきた営業上の強みに加えて、追加薬効(心血管リスクの低減、睡眠時無呼吸症、脂肪肝など)の開発進展による既存医薬品価値の増大、ノボが有する次世代品の臨床試験データの卓越性を鑑みると、3社目を寄せ付けない2社の牙城が相当期間は継続すると見ることができよう。

肥満症の適応を有するのはノボのウゴービ、リリーのゼブバウンドという薬剤で、平均で15%程度以上の体重減少効果を臨床試験で実証済である。もともとは同一成分が糖尿病治療薬として上市されていたが、体重減少効果が明確になり、商標名を変更しつつ肥満症薬へと転用された。下表のとおり、セマグルチド(一般名)を有効成分とする薬剤群の2023年売上は3兆円強、チルセパチド(同)の同売上は1.8兆円と巨額かつ高成長を続けており、供給が追いつかず、品不足の問題がたびたび報告されてきたものでもある。

主要肥満症(+糖尿病適応)治療薬売上高

名称	メーカー	効能	単位	2022	2023	増減率	2024Q1
リベルサス	ノボ・ノルディスク	糖尿病	DKKmn	11,299	18,750	66%	5,013
オゼンピック	ノボ・ノルディスク	糖尿病	DKKmn	59,750	95,718	60%	27,810
ウゴービ	ノボ・ノルディスク	肥満症	DKKmn	6,188	31,343	407%	9,377
ノボのセマグルチド(上記3品の一般名)小計			DKKmn	77,237	145,811		42,200
円換算 (単位: 10億円)				1,522	3,112	=3.1兆円	922
トルリシティ	イーライリリー	糖尿病	USDmn	7,439.7	7,132.6	-4%	1,456.3
マンジャロ	イーライリリー	糖尿病	USDmn	482.5	5,163.1	970%	1,806.5
ゼブバウンド	イーライリリー	肥満症	USDmn		175.8		517.4
リリーのチルセパチド(上記3品の一般名)小計			USDmn	7,922.2	12,471.5		3,780.2
円換算 (単位: 10億円)				1,069	1,793	=1.8兆円	566

(出所)各社リリースに基づきキャピタル アセットマネジメントが作成 (使用した為替レートについて末尾の注参照)

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



ウゴービ(一般名：セマグルチド)とゼブバウンド(一般名：チルセパチド)の2薬剤はGLP-1作動薬といわれる作用機序で共通しており(ゼブバウンドには同様なGIP作動作用もある)、インスリン分泌促進(→血糖値の低下)や脳・中枢における食欲抑制の働きによって体重減少をもたらす。GLP-1は食事した際に小腸から分泌され、代謝促進作用がありつつもすぐに分解されてしまう生体由来のホルモンである。それを分解されにくく改良し、脳での食欲抑制も発揮するように工夫したのが2薬剤である。

肥満症薬で特筆すべきことは、肥満に起因または関連する疾患に対しても副次的効果があることである。例えば、ウゴービは5年越しの大規模治験で心臓発作・死亡のリスクを偽薬比で20%減少させる効果を発表、2024年3月に心血管イベント予防の適応でも米食品医薬品局(FDA)からの承認を取得した。ゼブバウンドでは、睡眠時無呼吸症への効果が確認されている。さらに、肥満症は日本肥満学会が広報しているように、脳梗塞・一過性脳虚血発作、非アルコール性脂肪性肝疾患(脂肪肝)、肥満関連腎臓病などの合併症や、静脈血栓症・肺塞栓症、気管支喘息、不妊、胃食道逆流症、精神疾患などの健康障害との関連が報告されている。肥満症に対処することは、他の関連疾患の予防や進行抑制につながることに留意しておきたい。

2薬剤が波及的に他疾患へと領域を拡げていくことは、周辺領域のバイオ医薬企業にとっては脅威になるかもしれない。例えば、米バイオ医薬品会社マドリガルは脂肪肝の適応で米食品医薬品局(FDA)からの認可を、同薬効領域として初めての薬剤として3月に取得したが、株価は翌月に23%強下落した。リリーが、ゼブバウンド投与による脂肪肝への効果を決算発表に際して説明しており、(肥満症薬があれば)脂肪肝専用薬が必要ないのではないか、肥満症薬による波及効果が合併症・関連疾患の市場性を損なうのではないか、という見方によりマドリガル株が売りを浴びたことが要因だといわれている。このように、影響を受ける周辺領域で展開するバイオ医薬の評価に際して、肥満症薬からの侵食は重要な視点になりそうである。

5月3日、アムジエンの株価が急上昇した(前日比+11.8%、2009年以来の上昇率)。MariTide(GIPとGLP-1作動作用があり、ゼブバウンドと同クラス)というフェーズ2臨床試験段階にある肥満症の候補薬の中間解析について、「勇気づけられた」「自信を持っている」とCEOが表明、爆発的に拡大する肥満症薬市場に同社が食い込むことが期待されたことがその要因であった。2024年後半には主要な項目をピックアップした試験結果が発表される予定である。バイオ医薬の雄が、2社の牙城を崩せるかどうか、新薬による追加ベネフィットに要注目である。その他、シエラン、バイキング、アルティミュンなどの中小型バイオ医薬メーカーが第三のポジションを狙った開発でしのぎを削っている。これら中小型の中からノボ、リリーに続く三番手が現れる可能性が無いとはいえない。これら企業による開発競争について、当社では引き続き注視していきたいと考えている。

注：日本円換算には各々の期末1か月の月中平均為替を用いた。

2024年3月の月中平均で 1DKK = 21.84円 (Refinitiv) 1USD = 149.81円

2023年12月の月中平均で 1DKK = 21.05円 (Refinitiv) 1USD = 143.79円

2022年12月の月中平均で 1DKK = 19.20円 (Refinitiv) 1USD = 134.88円

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。